



## 4.2 新機能ガイド

(DCSpider V4.2 New Function Guide)

ドキュメント・リリース日:2020年6月26日 (第1版)



Copyright© 2020 TerraSky Co., Ltd. All rights reserved.

# 目次

1.	はじめに.....	4
1.1.	注意事項.....	4
1.1.1.	お客様へのお願い.....	4
1.1.2.	商標について.....	4
1.2.	表記について.....	5
1.3.	マークについて.....	6
2.	サーバ・クライアントアプリケーション.....	7
2.1.	DCSpider 全般.....	7
2.2.	DCSpiderServer.....	13
2.3.	DCSpider Studio.....	18
2.4.	DCSpider Studio for Web.....	18
3.	データベースアダプタ.....	24
3.1.	共通.....	24
3.2.	Access 2013 アダプタ.....	24
3.3.	Oracle アダプタ.....	25
3.3.1.	Oracle 12c R2 アダプタ.....	25
3.3.2.	Oracle 18c アダプタ.....	25
3.4.	PostgreSQL アダプタ.....	25
3.4.1.	PostgreSQL 10 アダプタ.....	25
3.4.2.	PostgreSQL 11 アダプタ.....	26
3.5.	SQL Server 2017 アダプタ.....	26
3.6.	JDBC アダプタ.....	26

4.	ファイルアダプタ.....	27
4.1.	Excel アダプタ.....	27
5.	ネットワークアダプタ.....	28
5.1.	REST アダプタ .....	28
5.2.	メール アダプタ.....	28
6.	クラウドアダプタ.....	29
6.1.	Amazon Web Services アダプタ.....	29
6.2.	Amazon S3 アダプタ .....	29
6.3.	Amazon RDS for PostgreSQL アダプタ.....	29
6.4.	Amazon RDS for Oracle アダプタ .....	30
6.5.	Amazon RDS for SQL Server アダプタ .....	30
6.6.	Amazon Aurora for MySQL アダプタ.....	30
6.7.	Amazon RDS for MySQL アダプタ .....	30
6.8.	Salesforce アダプタ .....	31
6.8.1.	Salesforce アダプタ .....	31
6.8.2.	Salesforce Bulk アダプタ.....	31
7.	認証 / OAuth 2.0.....	32

# 1. はじめに

本ドキュメントは、DCSpider V4.2の新機能・変更点について記述しています。

## 1.1. 注意事項

### 1.1.1. お客様へのお願い

- 本ソフトウェアの著作権は株式会社テラスカイまたはそのライセンサーが所有しています。
- 本ソフトウェアおよび本ドキュメントを無断で複製、転載することを禁止します。
- 本ドキュメントは万全を期して作成されていますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- 本ソフトウェアは使用者の責任でご使用ください。ご使用の結果、万一トラブルおよび訴訟などが発生しなくても、あらゆる直接、または間接の損害および損失につきまして、弊社は一切責任を負わないものとします。あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様や本ドキュメントに記載されている内容は、改善のため予告なしに変更されることがあります。
- 本ソフトウェアの使用には、ソフトウェアライセンス契約が必要で、株式会社テラスカイまたはそのライセンサーの重要な業務機密と独自の情報が含まれており、日本国政府の著作権法で保護されています。株式会社テラスカイまたはそのライセンサーのソフトウェアと本ドキュメントの無断使用は、損害賠償、刑事訴訟の対象となります。

### 1.1.2. 商標について

- TerraSky、TerraSky ロゴ、テラスカイ、DCSpider、DCSpider マーク、ディーシースパイダーは、株式会社テラスカイの商標または登録商標です。
- その他の会社名、製品名、サービス名などは、各社の登録商標または商標です。
- 個々のページに表示・記載されたこれら商標などの複製・転用を禁止致します。

## 1.2. 表記について

本ドキュメント内の表記は、次の規則に沿って行われています。




- DCSpider の画面に表示されるメニュー名・タブ名・プロパティ項目名および値・ボタン名は[]で囲んで太字で表します。また、それ以外の機能名や画面のタイトル、名称のないものは「」で囲んで前者と区別しています。
- 「\$DCSPIDER\_HOME」は DCSpider をインストールしたディレクトリを表します。  
デフォルトでは、Windows 版の場合は「C:¥Program Files¥DCSpider」、UNIX/Linux 版の場合は「<ユーザのホームディレクトリ>/DCSpider」となります。
- x86 版とは、32bit OS を表します。  
x64 版とは、64bit(Intel 64/AMD64) OS を表します。
- <と>で囲まれた名称は、可変であることを表します。

例:\$DCSPIDER\_HOME/server/logs/<日付ディレクトリ>

- 本ドキュメント内に表記されているウェブサイトの URL は 2020 年 5 月現在のものです。ウェブサイトの都合などにより、予告なしに URL が変更になる場合があります。
- 「Studio」とは「DCSpider Studio」を、「Studio for Web」とは「DCSpider Studio for Web」を指します。
- DCSpiderServer についての記述は Windows 版・UNIX/Linux 版共通になっています。  
オペレーティングシステムに依存する内容(パス区切り文字など)は適宜読み替えてご使用ください。
- 「DSS-」で始まる番号は、各問題の管理用の一意な ID となります。

### 1.3. マークについて

本ドキュメント内で使用しているマークについての説明は以下の通りです。

マーク	説明
	操作や設定に関するヒントであることを表します。
	操作や設定に関する注意事項や制限事項であることを表します。
	詳細な説明が別の項目に記載されていることを表します。

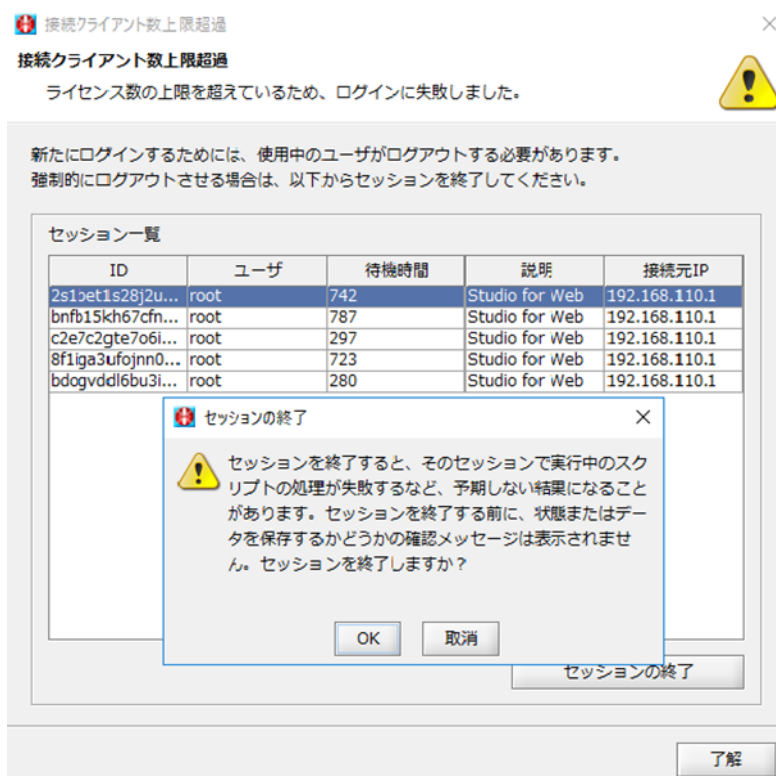
## 2. サーバ・クライアントアプリケーション

### 2.1. DCSpider 全般

- ライセンス数の上限を超えてログインできない状態で、管理者権限を持ったユーザがログインすると、「接続クライアント数上限超過」ダイアログを表示するようにしました。(DSS-16740)

「接続クライアント数上限超過」ダイアログでは以下のことができます。

- ライセンスを消費しているユーザ・セッションの確認
- セッションの切断



【接続クライアント数上限超過ダイアログ】

- 管理者権限を持たないユーザアカウントで、サービスの運用時に、すべてのスクリプトの実行結果のみを監視することが可能な「ログ閲覧ユーザ」を追加しました。(DSS-25382)

「ログ閲覧ユーザ」は、以下の機能と制限があります。

- DCSpider Studio および DCSpider Studio for Web にのみログインできます。
- マイログのみ使用できます。

- スクリプトの編集およびスクリプトの実行はできません。

サービスでエラーが発生した際に、どのコンポーネントでこういったエラーが発生したか、マイログで確認できますが、これまではサービスに対して権限を持つユーザか、管理者しか確認できませんでした。

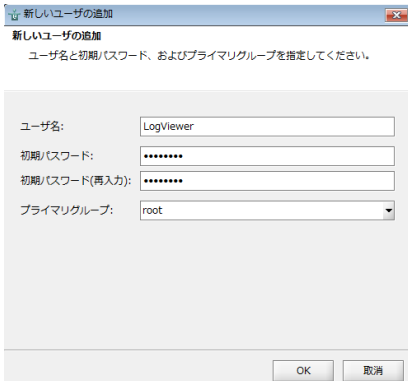
V4.2 より、ログ閲覧ユーザを使用することで、管理者ほどの権限を持たないユーザが、すべてのサービスのマイログを確認できます。

これにより、以下のような利点があげられます。

- 専任のログ監視者による障害の確認ができる。
  - ◇ ログ閲覧ユーザは、すべてのユーザのログを参照できるため、問題が発生しているサービスを適切に確認できます。
- 操作ミスを防ぐことができる。
  - ◇ ログ閲覧ユーザはマイログの機能のみ使用できます。プロジェクトの編集権限などは持たないため、作業者のミスによる思わぬ事故の発生を防ぐことができます。

以下の方法でログ閲覧ユーザを作成できます。

#### 1. ユーザを作成します。



新しいユーザの追加  
新しいユーザの追加  
ユーザ名と初期パスワード、およびプライマリグループを指定してください。

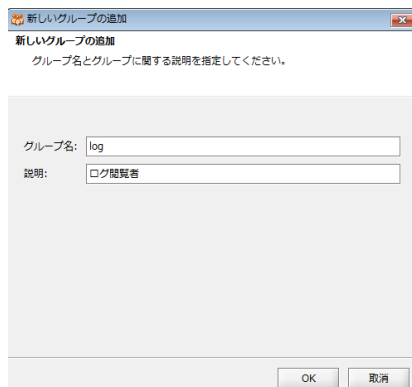
ユーザ名: LogViewer  
初期パスワード: \*\*\*\*\*  
初期パスワード(再入力): \*\*\*\*\*  
プライマリグループ: root

OK 取消

【新しいユーザの追加ダイアログ】

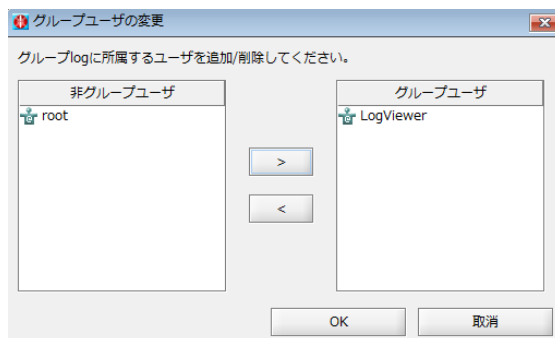


2. グループを作成します。



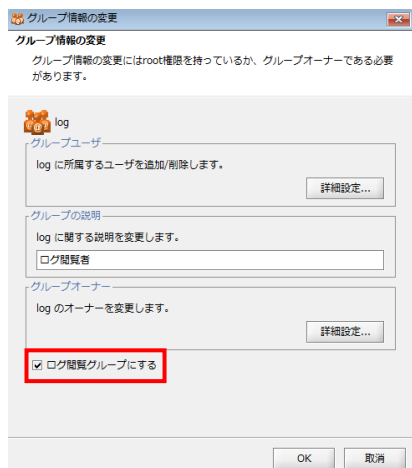
【新しいグループの追加ダイアログ】

3. グループの設定変更から、1. のユーザを[グループユーザ]へ移動します。




【グループユーザの変更ダイアログ】

4. [ログ閲覧グループにする]にチェックを入れて変更します。





【グループ情報の変更ダイアログ】

 ログ閲覧グループと root グループの両グループに所属しているユーザは、root ユーザと同様の管理者権限を持ちます。


5. 1.のユーザでログインすると以下のように「マイログ」と「ヘルプ」のアイコンが表示されます。



 ログ閲覧ユーザの詳細については、ヘルプ「サービスガイド」-「サービスの運用」ページの「障害発生時の対応」-「マイログ」項を参照してください。

 グループの詳細については、ヘルプ「サービスガイド」-「サービスの基礎知識」-「ユーザ管理」-「ユーザとグループ」項を参照してください。

- Mapper ロジックに、入力文字列を指定回数分繰り返して出力する「繰り返し文字列(入力ハンドラ指定)」ロジックを追加しました。(DSS-25753)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- DCSpider 全般および JDBC Proxy Server で、新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-26188, DSS-27589)

➤ サーバ・実行用クライアント、開発用クライアント共通

◇ Microsoft Windows Server 2019 Essentials/Standard/Datacenter (※)

※Server Core およびデスクトップ エクスペリエンス搭載サーバーをサポートします。

一部のコンポーネントは上記のプラットフォームに対応していません。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- 同梱している Java Runtime Environment(JRE)のバージョンを「1.8.0\_181」に変更しました。(DSS-26297)
- リポジトリ DB 対応データベースに以下が追加されました。
  - PostgreSQL 10(DSS-25588)
  - PostgreSQL 11(DSS-26873)

- Oracle Database 18c(DSS-26333)
- Oracle Database Cloud Service(DSS-24502, DSS-27322)
- Microsoft SQL Server 2017(DSS-25309)
- Amazon RDS for PostgreSQL 10(DSS-26326)
- Amazon RDS for PostgreSQL 11(DSS-27364)
- Amazon RDS for Oracle 12c Release 2(DSS-27475)
- Amazon RDS for SQL Server 2016(DSS-26308)
- Amazon RDS for SQL Server 2017(DSS-26648)
- Amazon RDS for MySQL 8.0(DSS-26945)



詳細については、ヘルプ「開発ツール」 - 「コントロールパネル」 - 「リポジトリ DB 管理」ページを参照してください。

- マイログで、実行履歴が大量に存在する場合に、実行履歴を検索できるようにしました。(DSS-16430)
- マイログで、以下のクライアントから実行履歴を検索する際に、検索条件に合致する実行履歴が大量に存在し「OutOfMemoryError」エラーが発生しても、クライアントの操作が行えるようにしました。(DSS-16430)
  - DCSpider Studio
  - Studio for Web
  - WebConsole
- DCSpider がサポートする仮想化システムの条件を変更しました。(DSS-26521)  
詳細は DCSpider インストールガイド「4.4. 仮想化システムについて」を参照してください。
- 新規に以下のプラットフォームに対応しました。(DSS-17232)
  - サーバ・実行用クライアント
    - ◇ Amazon Linux AMI (x64 版)
    - ◇ Amazon Linux 2 (x64 版)

一部のコンポーネントは上記のプラットフォームに対応していません。



詳細については、ヘルプを参照してください。

- GUIを持たない Linux (x64 版)で、コマンドライン(CUI)から DCSpider をインストールできるようにしました。(DSS-11733)

```
=====
インストールの開始
=====

DCSpider V4.2のインストールを開始します。

このインストールを続行する前に、
すべてのプログラムを終了することをお勧めします。

各種設定の詳細については、「DCSpider
インストールガイド」を参照してください。

各項目を入力後に[Enter]を押下すると、次へ進みます。
前へ戻る場合は、[back]と入力してください。
[quit]と入力すると、
いつでもインストールをキャンセルすることができます。

続行するには ENTER キーを押します: █
```

【CUI のインストール画面】

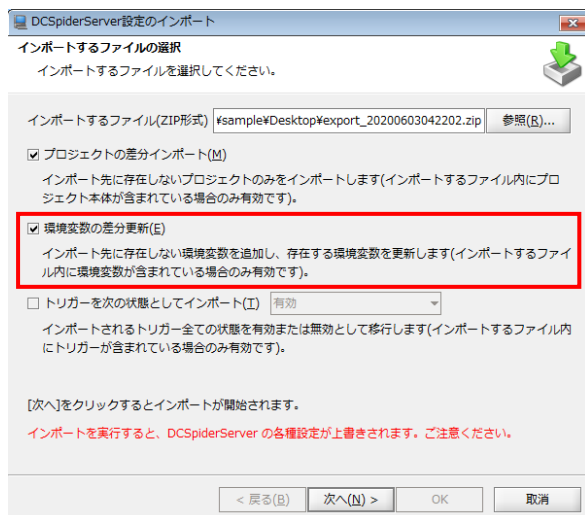
インストール方法については DCSpider インストールガイド「10.1. インストール」を参照してください。

- バージョン比較レポートの出力で、PSP データフローの有効化・無効化の変更を出力するようにしました。(DSS-24815)
- DCSpider V4.2 および DCSpider JDBC Proxy Server で、Microsoft Windows Server 2019 Essentials/Standard/Datacenter 専用のインストーラを追加しました。(DSS-27647, DSS-27746)


インストール手順については各ドキュメントを参照してください。

## 2.2. DCSpiderServer

- サーバ移行の「DCSpiderServer 設定のインポート」で、環境変数のインポートの動作について、従来の動作である「上書き」に加えて「差分更新」を選択できるように変更しました。(DSS-25838)



【インポートするファイルの選択ダイアログ】

 動作の違いについては、ヘルプの「開発ツール」 - 「コントロールパネル」 - 「DCSpiderServer の設定」 ページ「サーバの移行(インポート)」項を参照してください。

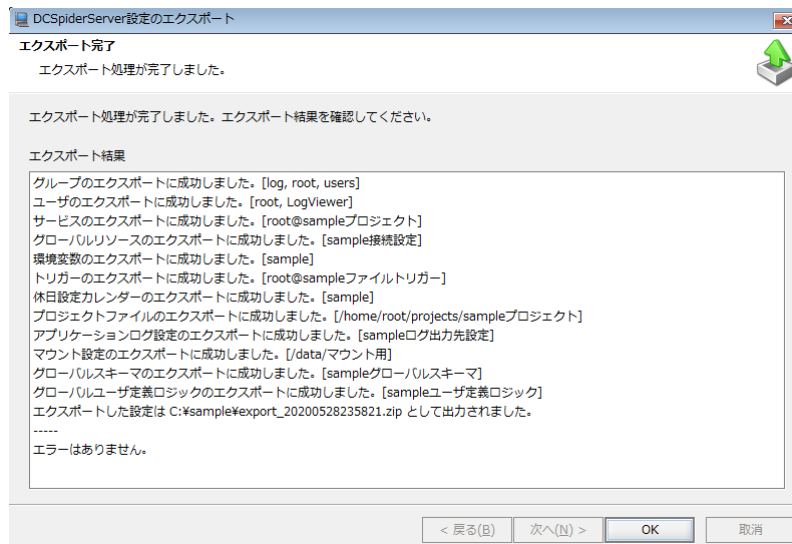
- サーバ移行の「DCSpiderServer 設定のエクスポート」でエクスポートした ZIP ファイルに、以下の情報が記載されたファイルを含むように変更しました。(DSS-26018)
  - エクスポートされた設定の項目一覧(list.tsv)
  - 処理結果のログ(export.log)

list.tsv はエクスポート時に選択した項目をエビデンスとして残しておくことができ、過去のバックアップとの内容比較をしたり、インポート前に内容を確認したりすることができます。

export.log はエクスポート完了時にダイアログに表示される「エクスポート結果」がそのまま出力されているため、ダイアログを閉じたあとも、選択した内容がエクスポートに成功しているか失敗しているかを確認できます。

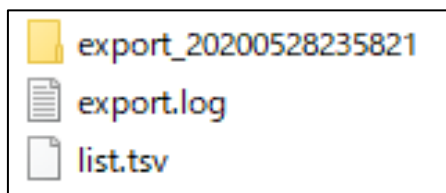
以下の手順でエクスポート情報が記載されたファイルを確認できます。

1. エクスポート完了画面で[OK]を押下しエクスポートが完了します。



【エクスポート完了ダイアログ】

2. ZIP ファイルには、「export.log」および「list.tsv」を含む以下のファイルが保存されます。

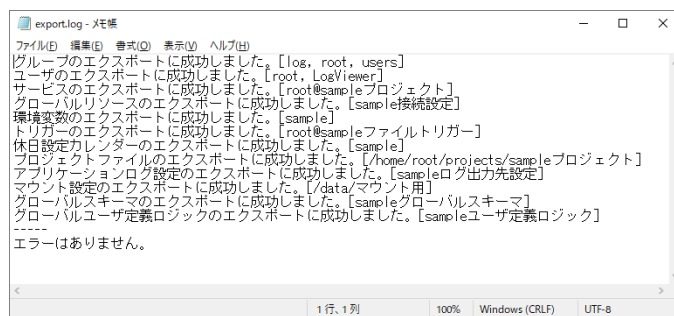


【ZIP ファイル内のファイル構成】

「export.log」および「list.tsv」は以下の情報が記載されています。

- 「export.log」ファイル

エクスポート完了画面のエクスポート結果が出力されます。



【export.log ファイル】

➤ 「list.tsv」 ファイル

エクスポートした設定情報の詳細がタブ区切りで出力されます。



【list.tsv ファイル】

- DCSpiderServer の URL にアクセスした際、エラー画面およびレスポンスヘッダで表示されていた Web コンテナのバージョンを非表示にしました。(DSS-17872)
- サーバ移行の「DCSpiderServer 設定のインポート」でインポートしたあと、DCSpiderServer の再起動を不要にしました。(DSS-25378)

従来、開発環境で作成したサービスをテスト環境や本番環境へ移行する際には、DCSpiderServer の再起動が必要でした。本バージョンより、DCSpiderServer の再起動が不要になりました。

これにより、DCSpiderServer の停止による影響を軽減し、開発環境から本番環境への移行が容易になりました。

サーバ移行で移行対象となる設定は以下の通りです。

- グループ
- ユーザ
- サービス
- グローバルリソース
- 環境変数

- トリガー
- 休日設定カレンダー
- プロジェクト
- アプリケーションログ出力設定
- マウント設定
- グローバルスキーマ
- グローバルユーザ定義ロジック



サーバ移行を実行する前に、以下を確認してください。

- スクリプトが実行されていないこと
  - サービスが実行されていないこと
  - デザイナが起動していないこと
  - ほかのユーザが DCSpiderServer を使用していないこと
- 休日設定の「2006-2030 日本カレンダー (土日・祝日あり)」に以下の対応を行いました。(DSS-25975, DSS-26356, DSS-27088)
    - 天皇退位及び天皇即位による祝日(天皇誕生日)の変更(変更前 → 変更後)
      - ◇ 2019 年以降の 12 月 23 日 休日 → 平日
      - ◇ 2020 年以降の 2 月 23 日 平日 → 休日
    - 「天皇の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律」および、「国民の祝日に関する法律第 3 条第 3 項に規定する休日」により、2019 年の以下の日付を平日から休日へ変更
      - ◇ 4 月 30 日 休日 祝日法第 3 条第 3 項による休日
      - ◇ 5 月 1 日 休日(祝日扱い) 天皇の即位の日
      - ◇ 5 月 2 日 休日 祝日法第 3 条第 3 項による休日
      - ◇ 10 月 22 日 休日(祝日扱い) 即位礼正殿の儀の行われる日
    - 「国民の祝日に関する法律 (昭和 23 年法律第 178 号) の特例」により、2020 年の以下の休日を変更(変更前 → 変更後)



- ◇ 海の日 7月20日 → 7月23日
- ◇ 山の日 8月11日 → 8月10日
- ◇ 体育の日（スポーツの日） 10月12日 → 7月24日

- グローバルリソースのデフォルトのアクセス権限を設定できる機能を追加しました。(DSS-26723)

機能を使用する場合は、以下の対象ファイルにキーを追加し、値を指定してください。

- 対象ファイル

system.properties

- 配置場所

\$DCSPIDER\_HOME/server/conf

- キー

default.globalresource.permissions

- 設定する値

グローバルリソースのデフォルトのアクセス権限を、3桁の8進数で設定します。

- 設定例

default.globalresource.permissions=644

- 補足

詳細については、ヘルプの「サービスガイド」 - 「サービスの運用」 - 「詳細なトピック」 - 「プロパティリファレンス」を参照してください。

- 以下の Mapper ロジックで、新元号を使用できるように変更しました。(DSS-26818)

- 和暦に変換

- 和暦のパーズ

- Mapper の和暦に変換で、以下の条件を満たすと「元年」で処理するように変更しました。(DSS-27106)

- 入力データが元号の1年目である

- ロジックのプロパティ設定で年の設定が「年」である

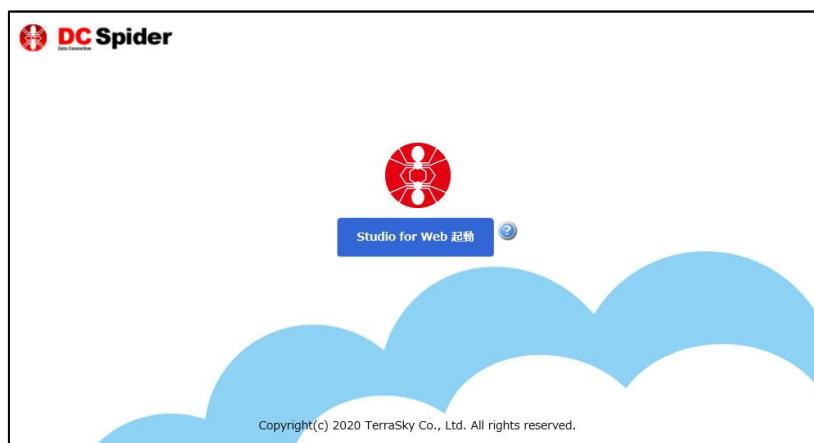
例: 「2019-05-1T00:00:00.000+0900」が「令和元年五月一日」に変換

## 2.3. DCSpider Studio

- グローバルユーザ定義ロジックで、編集を行う際に、以下の条件をすべて満たす場合、警告メッセージを表示するように変更しました。(DSS-25179)
  - 一般ユーザでログインしている
  - ログインユーザとは異なるユーザが作成したグローバルユーザ定義ロジックを編集する
- 呼び出し元の検索で、対象のスクリプト(呼び出し先スクリプト)を呼び出しているスクリプト(呼び出し元スクリプト)が、別プロジェクトのスクリプトである場合に検索できるようにしました。(DSS-24945)
- 画面サイズの変更が可能なダイアログを、初期表示時の画面サイズより小さく変更できるようにしました。(DSS-25139)
- 前回終了時の画面サイズで起動するように変更しました。(DSS-24687, DSS-24653)

## 2.4. DCSpider Studio for Web

- DCSpider Studio for Web を刷新しました。それにより、実行環境や起動方法が変更になっています。(DSS-25825)



【Studio for Web 起動画面】

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- HTML ファイル生成処理および HTML データ生成処理で、複数の入力データの設定に対応しました。(DSS-15812)

従来、HTML ファイル生成処理および HTML データ生成処理では、入力データはひとつしか設定できませんでしたが、本バージョンより、複数データを設定できるように機能拡張しました。「Velocity テンプレート」の入力により、複数の入力データを設定できるようになります。

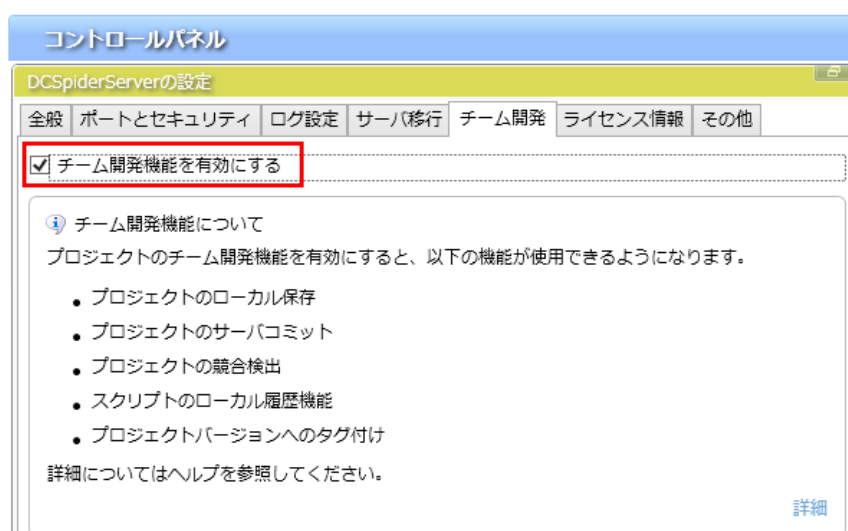
- 本バージョンよりキーボード・ショートカットが使えるようになりました。キー操作で以下の動作が可能となりました。(DSS-17369)
  - **[Ctrl]+[S]**で保存
  - **[Ctrl]+[Tab]**または**[Alt]+[F7]**でビューの切り替え
  - **[F1]**でヘルプ画面表示
- チーム開発機能を追加しました。(DSS-25409)

従来、DCSpider Studio for Desktop のみの機能であったチーム開発機能が、DCSpider Studio for Web でも使用できるように機能拡張しました。

DCSpider Studio for Web のユーザでも、DCSpider Studio for Desktop のユーザと同等に複数人によるサービス開発をスムーズに行うことができます。

DCSpider Studio for Web を使用して、プロジェクトの保存・コミット、およびサーバからの復元なども可能です。

また、DCSpider Studio for Web のユーザと、DCSpider Studio for Desktop のユーザがチームとして、共同でサービスの開発を行うことができます。



【DCSpider Studio for Web のチーム開発タブ】

- バージョン比較レポートの出力に対応しました。(DSS-24941)

従来、DCSpider Studio for Desktop のみの機能であったバージョン比較レポートの出力が、DCSpider Studio for Web でも使用できるように機能拡張しました。

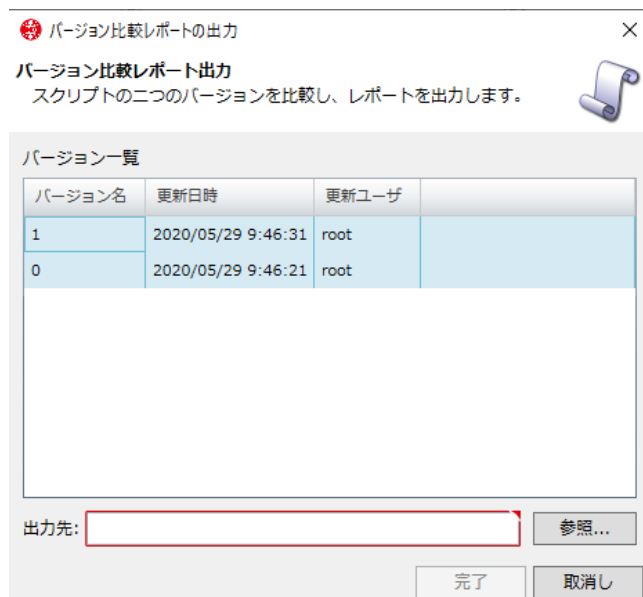
DCSpider Studio for Web を使用して、作成したスクリプトの修正前と修正後の差分を自動的にレポートとして出力することができます。

バージョン比較レポートの使用により、自動的に修正前のバージョンと修正後のバージョンの設定内容を比較し、修正したか所とその内容を見やすい形で出力するため、すぐに差分情報を把握することができます。

また、修正か所をドキュメント化してエビデンスとして残すことができるため、修正の影響範囲をドキュメントで管理することが可能です。

バージョン比較レポートの効果的な適用シーンとしては、たとえば以下のようなケースが挙げられます。

- スクリプト修正の範囲を知り、テストの範囲のインプットにする場合
- スクリプト修正の範囲を知り、テストが必要ないということのエビデンスにする場合
- 不要な修正を行っていないかをチェックする場合
- あるバージョンで問題が発生した際、どのバージョンの修正が影響したかを調査するために前のバージョンと比較する場合



【バージョン比較レポートの出力画面】

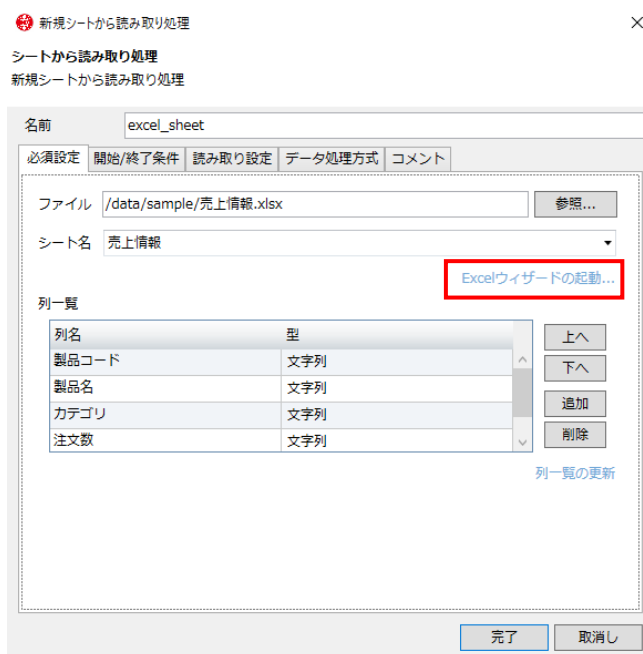
- 「Excel ウィザード」と「HTML ビルダー」に対応しました。(DSS-26222, DSS-13362)

従来、DCSpider Studio for Desktop だけの機能であった「Excel ウィザード」と「HTML ビルダー」が、DCSpider Studio for Web でも使用できるように機能拡張しました。

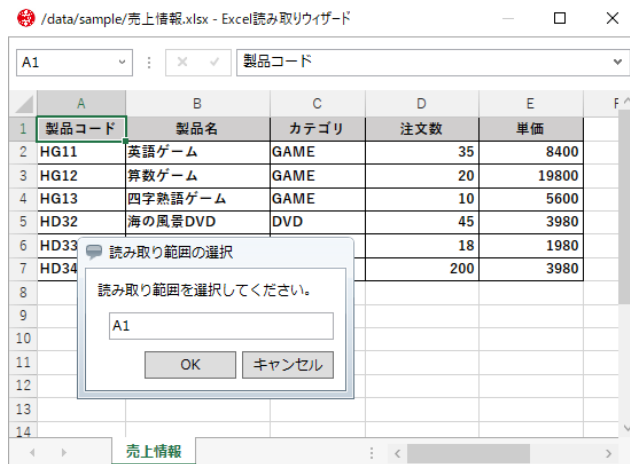
以下の機能拡張および UI の改善によって、よりスピーディなスクリプトの作成できるようになりました。

本バージョンの DCSpider Studio for Web の「Excel ウィザード」では以下が可能となりました。

- Excel ウィザード上の操作
- ドラッグ操作で、シートから読み取り処理の読み取り範囲を指定
- ドラッグ操作で、書き込み処理の書き込み範囲を指定



【シートからの読み取り処理ダイアログ】



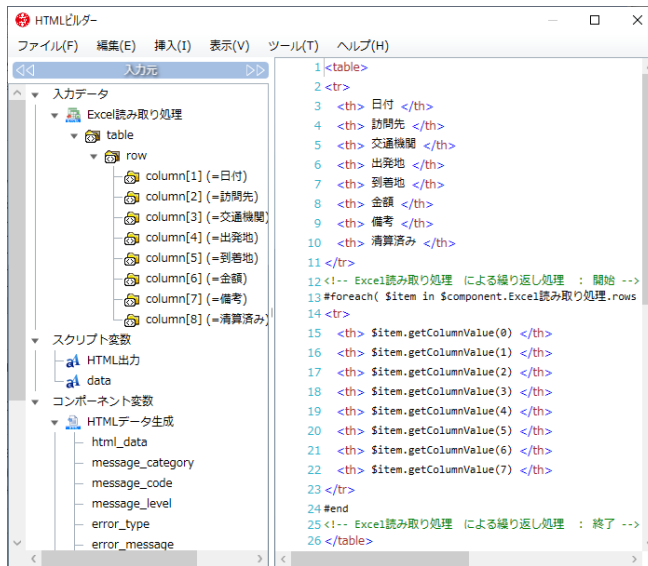
【Excel 読み取りウィザード】

本バージョンの DCSpider Studio for Web の「HTML ビルダー」では以下が可能となりました。

- モーダルウィンドウ上の操作
- メニューから操作の選択
- ショートカットキーの使用
- HTML テンプレートの挿入、および HTML5 テンプレートの挿入
- HTML キーワード、タグ、およびコメントのハイライト表示



【HTMLデータ生成処理ダイアログ】



【HTMLビルダー】

- Studio for Web で、プロジェクトをデザイナーで展開する際のパフォーマンスを改善しました。  
(DSS-26582)

## 3. データベースアダプタ

### 3.1. 共通

- SQL ウィザード(更新系)の[テスト実行]ボタン押下時に、グローバルリソースの[種類]が以下のいずれかである場合、ロールバックされない可能性がある旨のダイアログを表示するようにしました。  
(DSS-23422)

- JDBC(JDBC 接続設定)

また、ダイアログに記載の条件に当てはまる場合、「実行結果」にロールバックされた旨を表示しないようにしました。

- 以下のアダプタのグローバルリソースで、接続先のデータベースの URL を直接入力するかどうか選択できるように対応しました。(DSS-10338)

- DB2 アダプタ

- MySQL アダプタ

- PostgreSQL アダプタ

- SQL Server(JDBC 接続) アダプタ

- Amazon RDS for MySQL アダプタ

- Amazon RDS for PostgreSQL アダプタ


- Amazon RDS for SQL Server アダプタ

※ 本機能は WebConsole では対応していません。

- DB アダプタ(JDBC アダプタ、ODBC アダプタを除く)のテーブル書き込み処理で、バッチインサートで固定されていた全件挿入時の書き込み方式を変更できる機能を追加しました。(DSS-27010)


### 3.2. Access 2013 アダプタ

- Microsoft Access 2016 への接続に対応しました。(DSS-22455)

-  詳細については、ヘルプを参照してください。

- Microsoft Access 2019 への接続に対応しました。(DSS-26190)



 詳細については、ヘルプを参照してください。


### 3.3. Oracle アダプタ

- ヘルプの「グローバルリソースのプロパティ」ページで、「必須設定」項の「URL」 - 「備考」に、プラグブル DB を使用する場合の URL 形式を記載しました。(DSS-25923)


#### 3.3.1. Oracle 12c R2 アダプタ

- Oracle 12c R2 アダプタを追加しました。(DSS-24707)

本アダプタは、Oracle Database 12c Release 2 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Oracle Database Cloud Service への接続に対応しました。(DSS-24502)

 詳細については、ヘルプを参照してください。


#### 3.3.2. Oracle 18c アダプタ

- Oracle 18c アダプタを追加しました。(DSS-26333)

本アダプタは、Oracle Database 18c への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Oracle 18c アダプタで、Oracle Database Cloud Service への接続に対応しました。(DSS-27322)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

### 3.4. PostgreSQL アダプタ

#### 3.4.1. PostgreSQL 10 アダプタ

- PostgreSQL 10 アダプタを追加しました。(DSS-25588)


本アダプタは、PostgreSQL 10 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

### 3.4.2. PostgreSQL 11 アダプタ

- PostgreSQL 11 アダプタを追加しました。(DSS-26873)

本アダプタは、PostgreSQL 11 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

### 3.5. SQL Server 2017 アダプタ

- SQL Server 2017 アダプタを追加しました。(DSS-25309)

本アダプタは、Microsoft SQL Server 2017 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

### 3.6. JDBC アダプタ

- JDBC アダプタのグローバルリソースの [コネクション設定] タブで、クライアント情報が設定できる機能を追加しました。(DSS-27317)

## 4. ファイルアダプタ

### 4.1. Excel アダプタ

- 以下のオペレーションを追加しました。(DSS-7597, DSS-25574, DSS-11823)
  - シート名の変更
  - シートの削除
  - シートのコピー



【デザイナーのツールパレット】



各オペレーションの詳細については、ヘルプを参照してください。

※すでに Excel アダプタの WRITE ライセンスを購入している場合、当該オペレーションを使用するにはライセンスファイルの再発行が必要となります。ライセンス再発行の詳細については、DCSpider の販売元に問い合わせてください。

- Excel アダプタで、Excel 2019 で作成した Excel ブックに対応しました。(DSS-26189)

## 5. ネットワークアダプタ

### 5.1. REST アダプタ

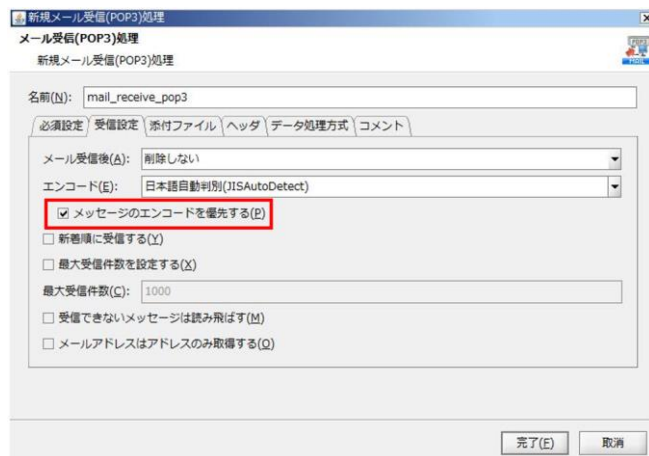
- NTLM 認証に対応しました。(DSS-25891)  
NTLM 認証は、各オペレーションの[認証]プロパティ項目で設定できます。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Server Name Indication(SNI)に対応したサーバへ HTTPS 接続できるように変更しました。(DSS-23456)


### 5.2. メール アダプタ

- TLS 1.1 および TLS 1.2 の暗号化による接続に対応しました。(DSS-23633)
- メール受信処理で、受信設定タブのエンコードについて、メッセージのエンコードを優先するかしないか選択できる機能を追加しました。(DSS-26092)



【メール受信処理ダイアログ】

デフォルトはチェックありで、これまでと同様、受信するメッセージにエンコードが指定されている場合はメッセージのエンコードを優先します。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 6. クラウドアダプタ

### 6.1. Amazon Web Services アダプタ

- Amazon Aurora for MySQL 5.6 アダプタを追加しました。(DSS-24708)


本アダプタは、MySQL 5.6 on Amazon Aurora への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

※本サービスパック適用の際、本オペレーションを使用するためにはライセンスファイルの再発行が必要になります。ライセンス再発行の詳細については、DCSpider の販売元に問い合わせてください。

### 6.2. Amazon S3 アダプタ

- Amazon S3 アダプタで、ファイル/フォルダコピー処理を追加しました。(DSS-22251)

 詳細については、ヘルプを参照してください。

※すでに Amazon S3 アダプタのライセンスを購入している場合、当該オペレーションを使用するにはライセンスファイルの再発行が必要となります。

ライセンス再発行の詳細については、DCSpider の販売元に問い合わせてください。

- Amazon S3 アダプタで、AWS 署名バージョン 4 による API リクエストを行うようにしました。(DSS-27191)

### 6.3. Amazon RDS for PostgreSQL アダプタ


- Amazon RDS for PostgreSQL 10 に対応しました。(DSS-26326)

本アダプタは、Amazon RDS for PostgreSQL 10 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for PostgreSQL 11 に対応しました。(DSS-27364)

本アダプタは、PostgreSQL 11 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。


## 6.4. Amazon RDS for Oracle アダプタ

- Amazon RDS for Oracle アダプタで、Amazon RDS for Oracle 12c Release 2 への接続に対応しました。(DSS-27475)

## 6.5. Amazon RDS for SQL Server アダプタ

- Amazon RDS for SQL Server 2016 アダプタを追加しました。(DSS-26308)

本アダプタは、Amazon RDS for SQL Server 2016 への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

- Amazon RDS for SQL Server 2017 アダプタを追加しました。(DSS-26648)

本アダプタは、Microsoft SQL Server 2017 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 6.6. Amazon Aurora for MySQL アダプタ

- Amazon Aurora for MySQL 5.7 アダプタを追加しました。(DSS-26012)

本アダプタは、MySQL 5.7 on Amazon Aurora への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 6.7. Amazon RDS for MySQL アダプタ

- Amazon RDS for MySQL 8.0 アダプタを追加しました。(DSS-26945)

本アダプタは、MySQL 8.0 on Amazon RDS への接続が可能なアダプタです。

 詳細については、ヘルプを参照してください。

## 6.8. Salesforce アダプタ

### 6.8.1. Salesforce アダプタ

- Salesforce API 40.0 アダプタを追加しました。(DSS-26401)  
本アダプタは、Salesforce API 40.0 への接続が可能なアダプタです。
- Salesforce API 43.0 アダプタを追加しました。  
本アダプタは、Salesforce API 43.0 への接続が可能なアダプタです。

### 6.8.2. Salesforce Bulk アダプタ

- Salesforce Bulk API 40.0 アダプタを追加しました。(DSS-26401)  
本アダプタは、Salesforce Bulk API 40.0 への接続が可能なアダプタです。
- Salesforce Bulk API 43.0 アダプタを追加しました。  
本アダプタは、Salesforce Bulk API 43.0 への接続が可能なアダプタです。

## 7. 認証 / OAuth 2.0

- OAuth 2.0 認証のグローバルリソースで、トークンリクエストのクライアント認証方式として「client\_secret\_post」に対応しました。(DSS-24482)



詳細については、ヘルプを参照してください。

- Studio のグローバルリソースで、OAuth 2.0 認証設定のリフレッシュトークンの取得方法を、クライアント OS のデフォルトブラウザから取得した認可コードを用いる方法に変更しました。(DSS-26758)

※ この変更により、認可リクエストでの state パラメータ検証には対応しなくなります。

- OAuth 2.0 / OpenID Connect 1.0 認証設定のリフレッシュトークンの取得方法を、クライアント OS のデフォルトブラウザから取得した認可コードを用いる方法に変更しました。(DSS-26738)

※ この変更により、以下に対応しなくなります。

- 認可リクエストでの state パラメータ検証
- ID Token の nonce パラメータ検証



**DCSpider V4.2 新機能ガイド**

第1版 2020.6.26

株式会社テラスカイ

URL : <https://www.terrasky.co.jp>

E-mail : [support@terrasky.co.jp](mailto:support@terrasky.co.jp)